

## 株主メモ

決算期	3月31日
基準日	毎年3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して 定めます。
配当金受領株主確定日	毎年3月31日及び中間配当金の支払いを行う ときは9月30日
定時株主総会 株式の名義書換 名義書換代理人	6月 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 中央三井信託銀行株式会社証券代行部 電話 (03) 3323-7111 代表
同取次所	中央三井信託銀行株式会社全国各支店 日本証券代行株式会社本支店
公告掲載新聞	日本経済新聞 (貸借対照表および損益計算書に係る情報は、 当社ホームページ (http://www.advanced- media.co.jp/) においてご提供いたしております。)

ホームページアドレス

<http://www.advanced-media.co.jp/>

### お知らせ

住所変更、名義書換請求および配当金振込指定に必要な  
統用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル  
0120-87-2031およびインターネットのホームページ  
([http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html))  
で24時間受付しております。

## アンケートに ご協力 ください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施させていただくことといたしました。お手数ではございますが、以下の方法によるアンケートへのご協力をお願いいたします。

- 下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。
- <https://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 3773
- 携帯電話からもアクセスできます。  
QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。
- アンケート実施期間は、本中間事業報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間（2006年2月10日まで）となりますのでお早めのご回答をお願いいたします。



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。  
アンケートに関するお問い合わせ  
「e-株主リサーチ事務局」TEL：03-5777-3900  
MAIL：info@e-kabunushi.com  
<ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます>

2005年4月1日～2005年9月30日  
第9期中間事業報告書



Advanced Media, Inc.

株式会社アドバンスト・メディア

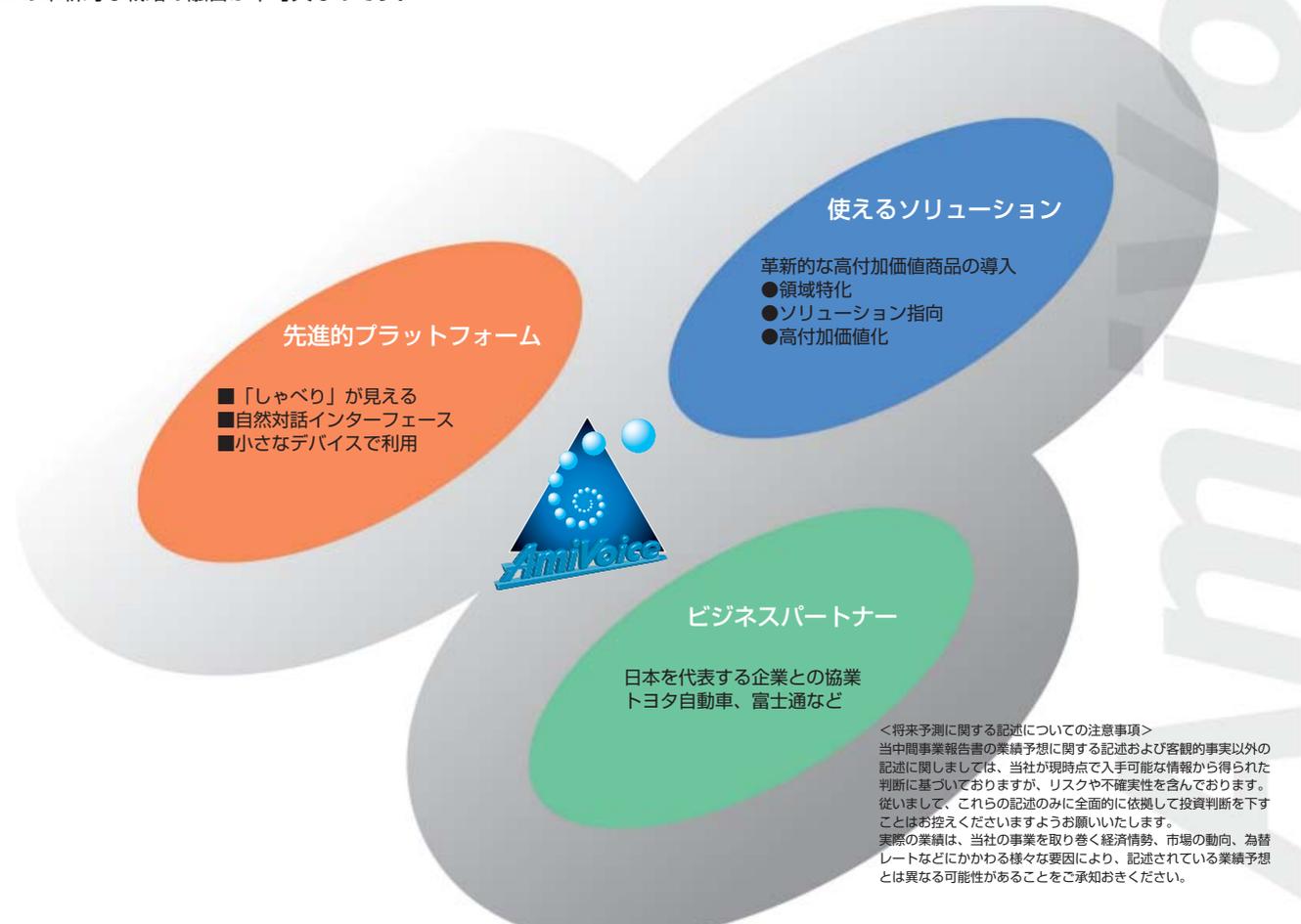
Advanced Media, Inc.

## HCI : Human Communication Integrationとは、 人が会話を通じて、「役に立つ」、「便利」、「ありがたい」を享受できる仕組みです。

『HCI』を実現しうる音声認識エンジン*AmiVoice*®は以下の特長を持っております。

- 従来の音声認識ソフトと異なり、事前学習を必要としない、つまり話者を特定しない画期的な音声認識エンジン。
- 優れた言語モデル・辞書を併せ持ち、特定単語の認識に留まらず、文章として高性能認識を可能とすることにより、ユーザビリティを飛躍的に向上。
- 業界最高水準の認識率を誇り、特定の業種や領域に特化したソリューションをも提供することで、既に多くの分野で採用されているポテンシャル。

以上のように、業界トップレベルの音声認識エンジン*AmiVoice*®の特長を活かしつつ、『HCI』の早期実現のために当社では、「先進的プラットフォーム」・「使えるソリューション」・「ビジネスパートナー」のカテゴリーに分けて分析。これら3つの革新的な戦略の融合が不可欠なのです。



<将来予測に関する記述についての注意事項>  
当中間事業報告書の業績予想に関する記述および客観的事実以外の記述に関しましては、当社が現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの記述のみに全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。実際の業績は、当社の事業を取り巻く経済情勢、市場の動向、為替レートなどにかかわる様々な要因により、記述されている業績予想とは異なる可能性があることをご承知おさください。

## 音声認識エンジン*AmiVoice*®導入の 主な事業分野



### 医療

病院でのカルテ、読影分析・診療レポートなどのデータ入力・編集作業。病院・診療所電子カルテ向け (*AmiVoice*® Ex)、放射線科画像診断レポート向け (*AmiVoice*® RadScribe) など



### エンターテインメント&エデュケーション (E&E)

ゲーム/TVでの入力アクションの容易化・自然化、語学教育。教育分野製品開発の基礎となる日本人特有の英語発音を正しく認識できる音声認識エンジンや日本人が陥りやすい発音上の問題を指摘する (発音評定) 音声認識技術 (*AmiVoice*® CALL)



### コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション (CTI)

コールセンタ業務、受付業務の高度化・効率化。コールセンタにおいてオペレータが顧客との会話に基づいて容易に情報検索を行えるよう支援するアプリケーション (*AmiVoice*® Assist)、電話対応のログをテキスト化するアプリケーション (*AmiVoice* CallScriber®)



### 政府・公共

議会議事録、各種委員会議事録、裁判録などの作成。地方自治体の議会議事録の作成を支援するアプリケーション (*AmiVoice*® Rewriter)



### ビジネス

営業報告データ、顧客とのやり取りの内容を音声・文字保存。外勤営業社員等の外部からの業務報告書作成支援アプリケーション (*AmiVoice*® Reporter)、内 (外) 線電話自動転送のアプリケーション (*AmiVoice*® Dialer)、音声自動応答受付装置 (*AmiReception*®)



### モバイル

携帯電話/DSR (Distributed Speech Recognition) 採用による高精度音声入力の実現

## 株主の皆様へ 当社の事業が社会に与えるインパクト



代表取締役社長 鈴木 清幸

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、市場創造により、事業価値を創造し、企業価値を増大させることを目指しています。音声は言語情報のメディアとして自然でかつ一般的でありますので、音声認識技術を基軸にユーザが価値を容易にとらえることができます。具体的には、「しゃべり」が見える（口語体の自然発話をテキスト化やコマンド実行からアクションにして目に見えるようにする）ことによる新たな価値の創造を提案・実現します。即ち、ビジネスや日々の生活に密着した実用的な **AmiVoice**® 音声認識ソリューションにより、ユーザが真に「役に立つ」、「便利」、「ありがたい」を享受できる仕組みを提供していきます。

当社の経営理念は「個人の飛躍的な能力向上と革新的な戦略こそが企業価値を生み出す」との考えから「組織を意識した個人プレー」をモットーに「情報革命への貢献」、「社会に対する貢献」を実現すべく、個々の高いスキルをパイラルに結集させスピーディな企業成長を成し遂げることです。この実現により、世界的に競争力のある最先端音声認識技術を核とした製品やサービスを生みだし、日本市場における音声認識の認知度を高め、市場を拡大し、音声認識分野におけるリーディングカンパニーとしての地位を確立し、それを揺るぎ無いものにしてまいります。

今後とも株主の皆様のご期待に応えられるよう、より一層の業績向上に邁進してまいります所存ですので、何卒、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

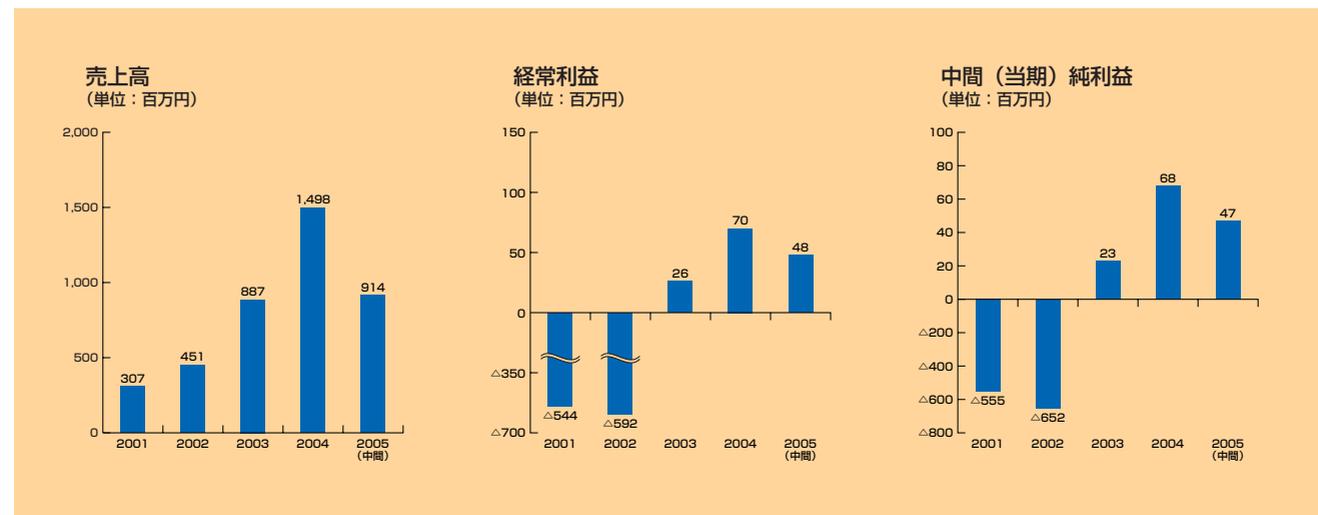
## 営業の概況

当社は当中間会計期間において、携帯電話向け分散型高精度音声認識システム搭載のセールス・フォース・オートメーション (SFA) ツール **AmiVoice**® **Reporter for Smart Phone** をリリースするなど、新規商材開発と市場拡大を行いました。また、携帯電話向けコンテンツ特化型分散型高精度音声認識システム **AmiVoice**® **DSR for Mobile Contents** のサービス開始、子会社である(株)ボイスドメインサービスの設立など、モバイル・サービス分野への布石を打ちました。愛知万博においては接客ロボット「アクトロイド®」(株)ココロとの共同開発)が極めて好評で、当社が今後進出する予定の一般領域の一般消費者向け領域における音声について、その特徴の分析を行いました。

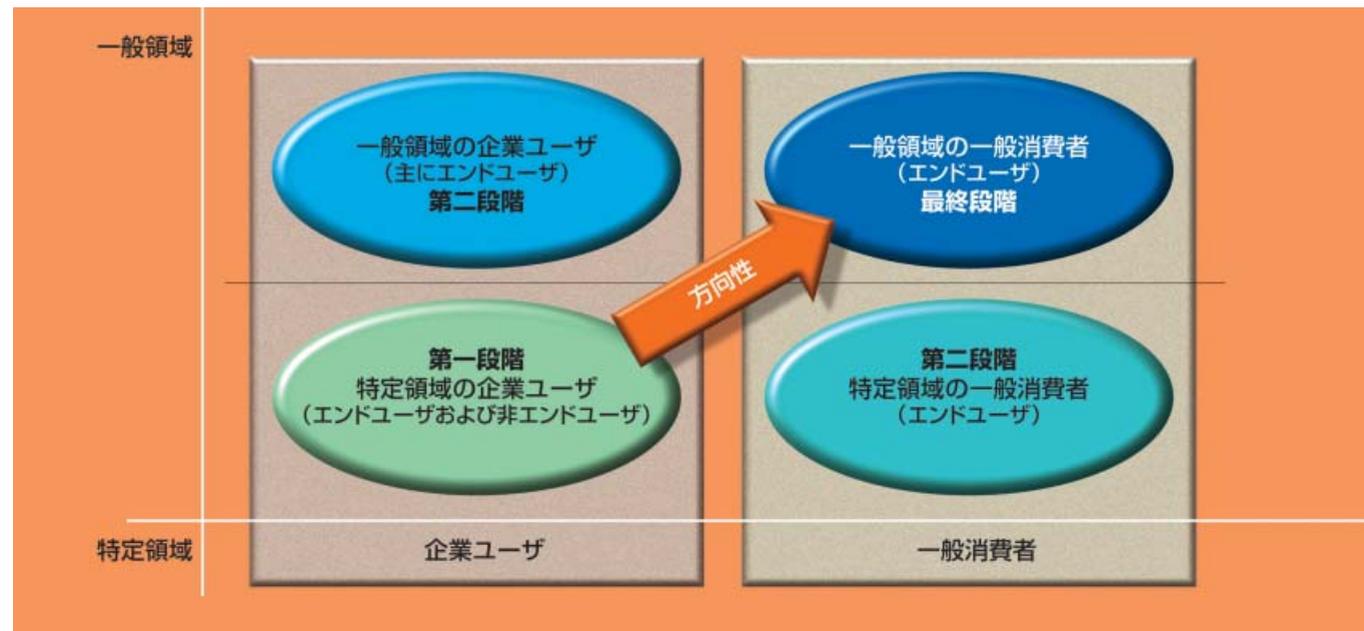
医療分野では放射線と病理のレポートングや電子カルテでの **AmiVoice**® の利用が引き続き好調で、9月末で診療所・病院539施設に普及し、医療向けパッケージの累計では1,000拠点以上に達しました。これに加え、全国589の調剤薬局に音声による薬歴入力システムが導入されました。エンターテインメント&エデュケ

ーション (E&E) 分野では、日本人学習者向け英語発音矯正アプリケーション **AmiVoice**® **CALL -pronunciation-** の販売、パッケージ商品の販売も好調に推移しました。コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション (CTI) 分野では **AmiVoice**® **Assist** や **AmiVoice CallScriber**® が企業ユーザに導入されました。政府・公共分野では、北海道議会など地方議会に **AmiVoice**® **Rewriter** が導入され、同製品は民間企業の議事録作成支援ツールとしても販売されました。ビジネス分野では **AmiVoice**® **Reporter** や **AmiReception**® が前期に引き続き好調に販売されました。

以上により、当中間会計期間の売上高は914,466千円（前年同期比79.5%増）となり、損益面では業容拡大に伴う人員増による人件費増、上場関係等の支払手数料増を吸収して、営業利益48,119千円（前年同期は126,418千円の損失）、経常利益48,114千円（同125,013千円の損失）、中間純利益47,052千円（同125,350千円の損失）と、前年同期を上回る実績となりました。



## 当社の音声認識ビジネスの方向性



当社は、これまで、特別な分野の企業ユーザに音声認識ソリューションを提案し、「使える」、「役に立つ」、「なくては困る」の評価を得ることに成功してきました。それは、医療分野での読影分析レポート作成や政府・公共分野の議事録の作成といった「しゃべったことがテキストに変換されるだけでもありがたいが生まれ、価値が創生できる」、いわば、価値の顕在化が容易な分野をターゲットにしたからであります。次に、ターゲットにした分野が価値の顕在化が比較的容易といえる英会話教育、日本語研修、接客研修、電話応対研修という「声に出す」ことに必然性がある分野でした。これは市場化戦略の第一段階といえるものです。

今後も、全潜在ユーザに音声認識ソリューションを普及させるために、市場セグメントを医療分野や政府・公共分野のようにしゃべる内容が特定化されている領域（特定領域）の企業ユーザ、特定領域の一般消費者、しゃべる内容が特定化されていない領域（一般領域）の企業ユーザ、一般領域の一般消費者の4つに分類し、技術的な制約や時間的な制約を段階的に克服しながら市場化を図っていきます。

## 事業トピックス



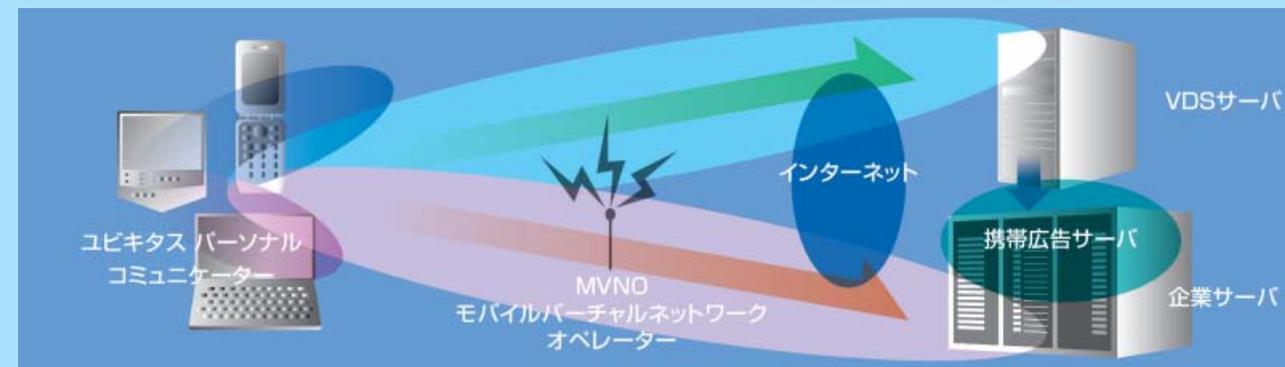
©NEDO ROBOT PROJECT  
 ※新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の委託事業である音声認識エンジンを搭載した接客ロボットアクトロイド® (株)ココロとの共同開発

### 接客ロボットアクトロイド®が愛知万博へ

「愛・地球博」(2005年3月25日～9月25日)において当社と(株)ココロで共同開発しました女性型接客ロボット「アクトロイド®」が当地においてロボットインフォメーションとして案内役を勤めました。

「アクトロイド®」は、NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、New Energy and Industrial Technology Development Organization)における「2004年次世代ロボット実用化プロジェクト」の「実用システム化推進事業」で「4カ国語を操る人間に酷似したアンドロイド受付」として開発されました。主な特長としては、日本語・中国語・韓国語・英語の自然な話し言葉でそれぞれ理解し、その言語を人間そっくりな合成音声で返事をする事ができます。また、人間そっくりな外観をもつロボットで、会話に合わせ人と同じような動きをします。

当社は、このロボットの言語認識・理解、そして対応する技術を提供しています。この技術は、ただ単に多国語を理解するだけでなく、不特定多数の人の声を認識するために声の事前登録なしにその人の特徴(話す速さやイントネーション)を理解し、雑音の多いところでも声を認識、自然な合成音声で回答をするというものです。



### (株)ボイスドメインサービス 設立(2005年7月)

当社の子会社、株式会社ボイスドメインサービス(以下VDS)は、2005年11月28日より音声による携帯サイトへ接続するサービスの試験提供を開始しました。携帯電話ユーザはこの音声入力ツールが利用できることで、親指入力から開放されます。当サービスの普及により、携帯電話が通話中心のツールからパソコンのようなコミュニケーションツールに変貌するものと考えます。

## 財務諸表

## 中間貸借対照表

(単位：千円)

科目	期別	前事業年度 (2005年3月31日現在)	当中間会計期間 (2005年9月30日現在)
<b>資産の部</b>			
流動資産		1,908,891	4,381,324
固定資産		925,219	1,126,557
有形固定資産		54,533	59,654
無形固定資産		565,200	630,527
投資その他の資産		305,484	436,374
<b>資産合計</b>		<b>2,834,110</b>	<b>5,507,881</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債		766,748	706,910
固定負債		14,343	—
<b>負債合計</b>		<b>781,091</b>	<b>706,910</b>
<b>資本の部</b>			
資本金		2,111,250	3,218,475
資本剰余金		50,000	1,643,675
利益剰余金		△108,230	△61,178
<b>資本合計</b>		<b>2,053,019</b>	<b>4,800,971</b>
<b>負債及び資本合計</b>		<b>2,834,110</b>	<b>5,507,881</b>

## 中間損益計算書

(単位：千円)

科目	期別	前中間会計期間 (2004年4月1日から 2004年9月30日まで)	当中間会計期間 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)
売上高		509,435	914,466
売上原価		237,202	355,411
売上総利益		272,232	559,054
販売費及び一般管理費		398,651	510,935
営業利益又は営業損失(△)		△126,418	48,119
営業外収益		1,405	46,673
営業外費用		—	46,678
経常利益又は経常損失(△)		△125,013	48,114
特別利益		810	91
税引前中間純利益又は 税引前中間純損失(△)		△124,202	48,205
法人税、住民税及び事業税		1,147	1,153
前期繰越損失		176,421	108,230
中間未処理損失		301,771	61,178

## 剰余金計算書

(単位：千円)

科目	期別	前中間会計期間 (2004年4月1日から 2004年9月30日まで)	当中間会計期間 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)
<b>(資本剰余金の部)</b>			
資本剰余金期首残高		1,882,050	50,000
資本剰余金増加高		△1,882,050	1,593,675
資本剰余金中間期末残高		—	1,643,675
<b>(利益剰余金の部)</b>			
利益剰余金期首残高		△2,058,471	△108,230
利益剰余金増加高		1,882,050	47,052
当期純利益		—	47,052
欠損填補		1,882,050	—
利益剰余金減少高		125,350	—
当期純損失		125,350	—
利益剰余金中間期末残高		△301,771	△61,178

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	期別	前中間会計期間 (2004年4月1日から 2004年9月30日まで)	当中間会計期間 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		40,080	53,091
投資活動によるキャッシュ・フロー		△240,384	△271,562
財務活動によるキャッシュ・フロー		—	2,691,391
現金及び現金同等物に係る換算差額		2,191	7,266
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)		△198,111	2,480,187
現金及び現金同等物の期首残高		855,706	1,073,795
現金及び現金同等物の中間期末残高		657,594	3,553,982

## 会社概要 (2005年11月1日現在)

- 会社名 株式会社アドバンスト・メディア
- 設立 1997年12月
- 資本金 32億3,087万円
- 主要株主 鈴木清幸、トヨタ自動車株式会社、他
- 取引銀行 東京三菱銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、他
- 所在地 本社 〒170-6048  
東京都豊島区東池袋三丁目1番1号 サンシャイン60 48F  
Tel:03-5958-1031 (代表) Fax:03-5958-1032
- 子会社 株式会社ボイスドメインサービス  
エムシーツ株式会社
- 業務提携先 Multimodal Technologies, Inc. (米国)  
(持分法適用関連会社)
- 事業内容
  - ◆「**AmiVoice**®」を組み込んだ音声認識ソリューションの企画・設計・開発を行う「ソリューションサポート事業」
  - ◆「ソリューションサポート事業」で掘り起こされた市場のニーズに適合するパッケージ商品を、ライセンスとして提供する「ライセンス事業」
  - ◆当社が「**AmiVoice**®」を使い、企業内のユーザや一般消費者へサービス提供を行う「サービス事業」

- 役員
- 代表取締役社長 鈴木 清幸
- 取締役 安斉 哲夫
- 取締役 藤田 泰彦
- 取締役 金子 宏
- 取締役 飛山 晴彦
- 取締役 小林 明隆 (非常勤)
- 常勤監査役 石川 紘次
- 監査役 平尾 正樹 (非常勤)
- 監査役 向川 寿人 (非常勤)

- 沿革
  - 1997年12月**  
音声認識ベンチャーとして、株式会社アドバンスト・メディアを東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目32番6号に設立。
  - 1998年1月**  
Interactive Systems, Inc. (米国) と日本語音声認識システム**AmiVoice**®の共同開発を開始し、同時に**AmiVoice**®をベースとした音声認識市場の構築事業に着手。
  - 2000年7月**  
開発支援ツールキット**AmiVoice**® SDK (バージョン3.0) をリリースし、事実上のソリューションサポート事業を開始。本社を東京都豊島区東池袋三丁目1番1号に移転。

- 2001年11月**  
開発委託先である関連会社Multimodal Technologies, Inc. (米国) 設立。  
Interactive Systems, Inc.をMBOによりMultimodal Technologies, Inc.に吸収。当社より、取締役2名を派遣。
- 2004年3月**  
医療向け電子カルテアプリケーション**AmiVoice**® Ex (*Hospital/Clinic*) をリリース。
- 5月** **AmiVoice**® *Rewriter*が地方議会の本会議、委員会で運用開始。
- 2005年3月**  
愛知万国博覧会に当社の対話技術を装備した4カ国対応の受付案内ロボット (アクトロイド®) を出展。
- 6月** 東証マザーズ上場

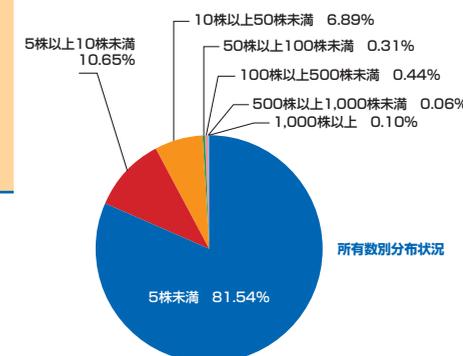
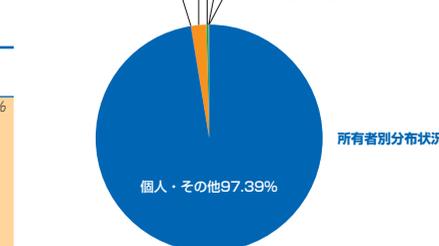
## 株式の状況 (2005年9月30日現在)

- 会社が発行する株式の総数 250,000株
- 発行済株式の総数 108,807株
- 株主数 13,519名

### ●大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	所有株数	持株比率
	株	%
鈴木 清幸	10,222	9.39
トヨタ自動車株式会社	10,000	9.19
株式会社ポプラ社	5,000	4.59
ソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド2号	4,260	3.91
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,556	3.26
富士通株式会社	3,000	2.75
ドイチェンバンク アーゲー ロンドンピービー ノントリティー クライアント 613	1,750	1.60
ザバンク オブ ニューヨーク トリーティー ジャスデック アカウント	1,570	1.44
浜田 幸一	1,309	1.20
大阪証券金融株式会社 (業務口)	1,289	1.18

金融機関 0.07%  
外国人 0.27%  
証券会社 0.10%  
保管振替機構名義株式 0.01%  
その他国内法人 2.16%



## ホームページ



<http://www.advanced-media.co.jp/>

当社では、ステークホルダーとのコミュニケーションを円滑にするためにコーポレートウェブサイトを立ち上げております。株主の皆様へのIR情報や決算短信等情報を充実させており、定期的に当社の事業内容を分かりやすく紹介させていただいております。